

林業ぐんま



平成29年5月20日 第71回群馬県植樹祭 (神流町 神流川公園)

目次

林政情報	1
「林地台帳制度」の概要	
治山事業による山地災害対策	
森の談話室	4
～地域林業の発展に尽力～	
下仁田町本宿 神戸金貴さん	
各地のたより	5
(渋川) 山火事パトロールの実施	
(西部) 烏川流域(源流部)	
森林整備推進協定の締結について	
(藤岡) 第71回群馬県植樹祭	
「小さな芽 未来へつながる 希望の木」	
(富岡) ぐんま緑の県民基金を活用した	
地域活性化の取り組み	
(吾妻) 嬭恋村で植樹イベントを開催	
(利根沼田) 木質バイオマス発電施設	
「森林の発電所」開設	
(桐生) クマ剥皮被害材強度等性能試験	
結果報告会を開催しました	9
地域を担う人	
小池 範明さん 市川 太一さん	
大澤 成樹さん 植木 尚さん	
普及コーナー	11
林業技術を競う大会が開催されました	
第18回群馬県きのこ料理コンクールの	
参加者募集について	13
林業試験場から	
県産スギ心去り平角の開発について	
トピックス	14
林業改良普及協会第58回通常総会	
～森林・林業を支え、みどり豊かな	
郷土群馬づくりに貢献する～	15

夏

2017

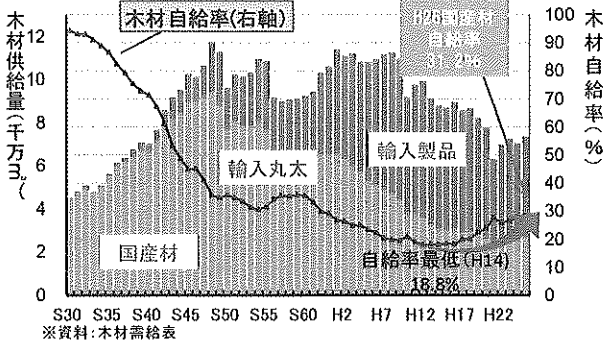
林政情報

「林地台帳制度」の概要

森林・林業の情勢

戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中で、国産材需要は住宅用などの従来需要に加えて、CLTや耐火部材等の新製品の開発、木質バイオマスの利用の広がりにより拡大の兆しが見られます。一方で、木材価格の低迷、森林所有者の世代交代、地籍調査の遅れ等から所有者不明の森林が全国で増加しており、地域の森林を木材として活かすために膨大なコストが生じています。

■ 木材(用材)供給量の推移



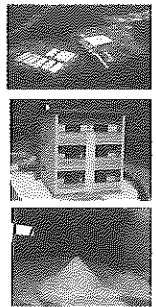
■ 国産材需要拡大の兆し

木材加工施設の整備が進み、H23年以降、稼働(予定)の主な工場の原木消費量は190万m³に相当。

CLT※、耐火部材等の新たな製品の開発・普及が進展。(平成26年度までに全国で9棟がCLTを構造材として活用。平成27年度はさらに10棟以上が竣工見込み。)

固定価格買取(FIT)制度の開始により、木質バイオマスのエネルギー利用が進展。(平成27年7月末現在、20件の木質バイオマス発電施設(未利用木材を利用)が稼働中。)

※Cross Laminated Timberの略称で、ひびきを並べた層を、板の方向が層ごとに直交するように重ねて接着した大判のパネル。



農林水産省資料

国ではこうした状況を踏まえ、平成28年5月の森林法の一部改正において、市町村が統一的な基準に基づき、森林の土地の所有者や林地の境界に関する情報等を整備・公表する「林地台帳制度」を創設しました。

改正森林法の施行日は、平成29年4月1日ですが、林地台帳の整備に当たっては充分な準備期間を確保する必要があることから、平成31年3月末まで経過措置が設定されており、それまでの間に市町村と県により林地台帳を整備する必要があります。

■ 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における林業の位置付け

「まち・ひと・しごと創生総合戦略(抜粋)」

Ⅲ. 今後の施策の方向

2. 政策パッケージ

(1) 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

(ウ) 地域産業の競争力強化(分野別取組)

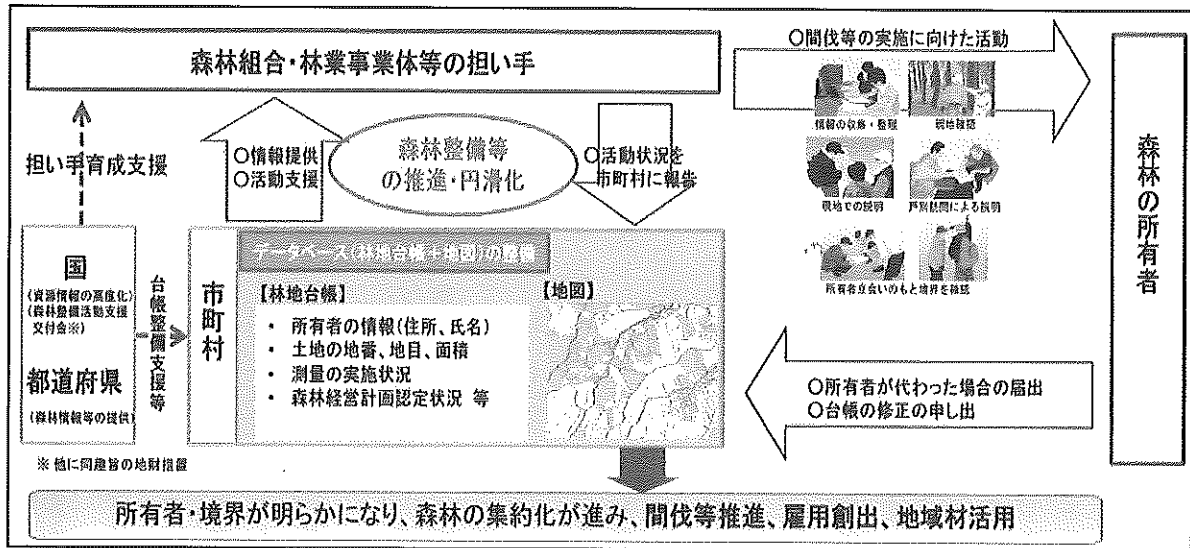
【主な施策】③ 林業については、成長産業化のため、森林資源を循環利用しつつ、CLTの普及に向けた取組の総合的な推進、公共建築物の木造化等の促進・木質バイオマス利用の推進等による新たな木材需要の創出、木材の加工流通施設の整備、自伐林家を含めた多様な担い手による林業の生産性の向上や地域における木材利用供給システムの構築、人材の確保及び育成等による国産材の安定供給体制の構築を推進する。

農林水産省資料

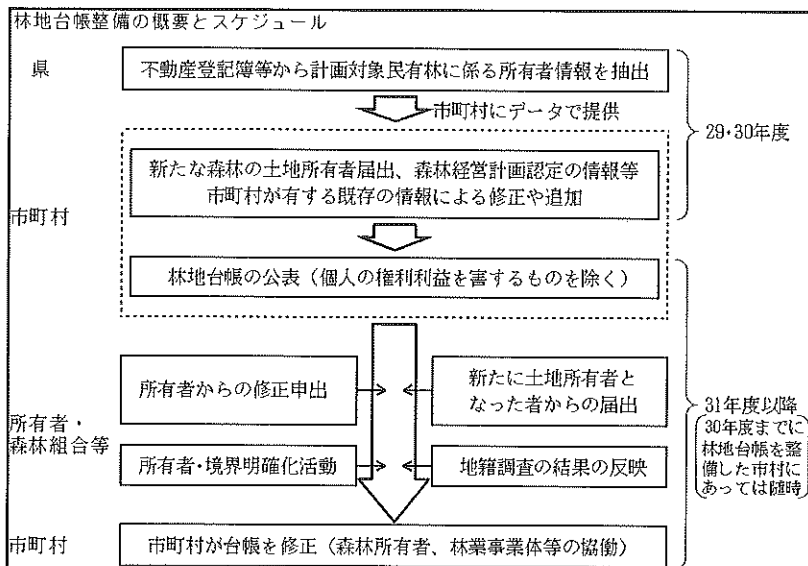
※まち・ひと・しごと創生総合戦略は、国が人口減少と地域経済縮小の克服を目指して立てた総合戦略です。

林地台帳の効果

台帳が整備されると、森林の所在や地番等が各市町村の窓口でワンストップで閲覧することができ、土地の所有者等の特定に要する時間の短縮が期待されます。このため、森林組合・林業事業者等による施業集約化の推進や災害復旧工事・公共工事の円滑化が期待されます。(次ページ上段の図をご覧ください。)



農林水産省資料



林地台帳整備とスケジュール
 県では、平成29年度に林地台帳原案を作成し、各市町村に提供します。
 各市町村は、平成30年度に林地台帳原案に森林の土地所有者届出や森林経営計画認定の情報等による修正や追加を行って台帳を整備し、平成31年度から窓口で林地台帳を公表します。

林地台帳の精度向上

森林の中には、既に所有者や境界が不明な土地が数多く存在しており、林地台帳が公表されても、全ての森林所有者や境界が明らかになるわけではありません。市町村が主体となり、森林所有者・事業者・県が協力して、森林の所在や地番情報等を更新することで、林地台帳の精度向上を図っていきます。

林地台帳の整備・運用マニュアル

国では、林地台帳の整備・運用に関する標準的な作業手順や具体的な事務手続き等をまとめた、マニュアルをホームページで公開しています。興味のある方はご覧ください。

林野庁「林地台帳」掲載ページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/rinchidaityou/rinchidaichou.html>

林政情報

治山事業による山地災害対策

毎年、梅雨時期から台風シーズン終了にかけては、集中豪雨等による山地災害が多数発生しており、県民の生命や財産を脅かすとともに、公益的機能を有する森林の一部が失われています。

平成二十八年度においても、県内の七市町村で、二十一件の山地災害が発生し、被害総額は約七億円となっています。中でも沼田市利根町（柿平）地区においては、台風十三号により山腹崩壊が発生、流出した土砂が民家の床上にまで流入したため、地区の四軒が避難生活を余儀なくされました。

治山事業では、こうした被災箇所に対して迅速に対応すべく、災害関連予算による対策を実施しており、平成二十八年度においては、国庫の災害関連緊急治山事業が、柿平地区を含む二箇所で約二億円、県単独治山事業（災害関連）も二箇所で約三千万円を確保し、平成二十九年度も復旧に取り組んでいます。

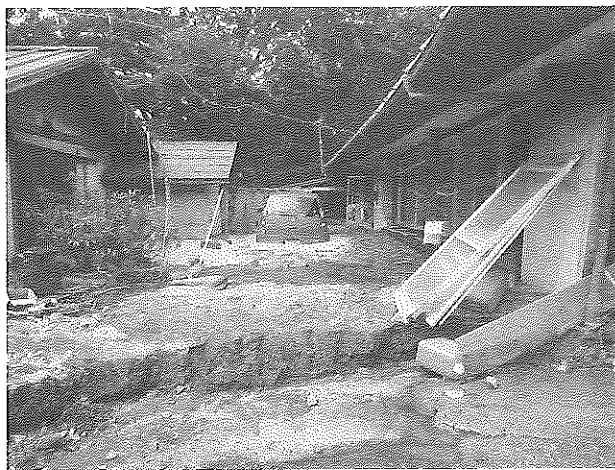
今年も、群馬県に甚大な被害をもたらした昭和二十二年のカスリーン台風から七十年ということもあり、山地災害に対する県民の防災意識の向上を図るため、山地災害危険地区に関するリーフレットの作成、配布を行うと

ともに、治山事業未着手箇所の現状把握を進め、必要な予防対策に積極的に取り組みます。

（森林保全課）



渓流の侵食状況



庭先に土砂が流入



道路上に土砂堆積

森の談話室

地域林業の発展に尽力

下仁田町本宿 神戸 金貴さん

今回は、かつて下仁田町森林組合長として地域林業の発展に尽力されました神戸金貴さんを紹介します。

神戸さんは昭和34年に高校卒業と同時に家業である林業に従事し、植林、保育をはじめ自家所有林約340ヘクタール（うち人工林約65ヘクタール）の森林整備に取り組むと

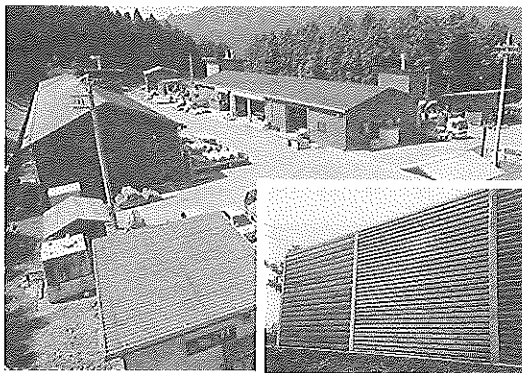


神戸金貴さんと妻の絹江さん

もに、地元林業研究グループの会長として地域林業の先導役を担いました。平成2年に下仁田町森林組合の

監事に就任したのを皮切りに、理事、副組合長を経て、平成11年に組合長に就任しました。就任後はかつて民間企業の工場長として品質管理に取り組んだ経験を中心に、「拡大するマーケット（市場）に通じる問題の解決手法を習

得する」ため、職員を異業種の研修に参加させる等、組合の改革に取り組むとともに、地域材・間伐材の新たな販路を拡大するため、高速自動車道に設置する木製遮音壁の研究・開発に着手し、平成12年度には北関東自動車道の木製遮音壁約3km分を納入、県内外で大きな評価を得ました。この遮音壁の製造過程においては、「クレームに学べ」をモットーに、同組合が所有する「杉の木小径木加工センター」の品筆管理指導を自動車産業の品質管理者に依頼する等、良質な製品と効率的な製造工程の確立に尽力されました。一方で組合



杉の木小径木加工センターと木製遮音壁

の広報誌の発刊を始めるなど、希薄となりつつあった組合員とのコミュニケーションを復活させ、施業

の団地化と「下仁田方式」と呼ばれる作業道の開設、高性能林業機械の導入による搬出間伐の推進にいち早く取り組み、小径木加工事業による付加価値の高い間伐材の販売など多

様な組合事業を展開し地域林業の発展に大きく貢献しました。

平成20年に森林組合長を退任され、現在は生まれ育つた下仁田町本宿で自家所有林の経営に携わるかたわら、地元「本宿まちおこ



皆伐・再造林した所有林(スギ7年生)

し推進協議会」の会長として、かつて宿場だった往事の家並みを活用したイベントを行うとともに、趣味であるカメラを駆使し、本宿の四季の風景写真等を自ら開設しているブログ「かねさんの本宿フォトギャラリー」に掲載し情報発信を行っています。

現在私たちが取り組んでいる集約化施業や間伐材の利活用の礎を築いた偉大な先輩からお話を伺った後、「自分たちが産業としての林業に懸けた思いを、若い林業技術者に引き継いでもらいたい」とのお言葉をいただき、身の引き締まる思いがしました。

(富岡森林事務所通信員)

の便り

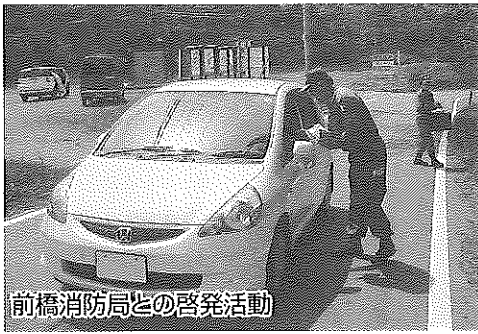
山火事パトロールの実施

森林は木材の生産基盤であるとともに、水源の涵養、国土の保全及び保健休養の場としての活用等、公益的機能を有し、地球温暖化防止における二酸化炭素の吸収源として重要な役割を担っています。

林野火災は、地形や道路状況などにより、消火活動が困難であることが多く、いったん発生すると被害が大きくなる傾向があり、また、焼失した森林を復旧し、公益的機能を回復させるまでには、長い時間と多くの費用を要するため、発生の未然防止と発生初期の発見による初期消火活動が何よりも大切です。

4月から5月にかけては、乾燥や強風により危険が増す時期であり、渋川森林事務所では、中部地区林野火災予防対策連絡協議会を設置し、管内市町村、広域消防、国有林等関係者と協力し、山火事予防の啓発活動の取組みを行っています。

4月24日に当



前橋消防局との啓発活動

管内の渋川市川島地内で野火による林野火災が発生しました。

幸いに大事には至りませんでした。宮城県や岩手県では、数日間にわたる大規模な山火事が発生し、住宅等への延焼もありました。渋川森林事務所では、毎年、4月から5月の連休にかけて、管内一円を職員2名3班体制による山火事パトロールを実施しており、地域住民や入山者等に対する予防啓発活動を行いました。

また、平日には、森林保全監視指導員による森林パトロールを実施しました。

今後も、関係機関と連携した予防啓発活動に取組み、山火事の発生しやすい時期に関係機関が協力して、住宅地等に近接する森林での重点的な森林パトロールを実施するなど、森林の保全管理に努め、森林所有者やハイカー等の入山者に山火事の未然防止と早期発見の協力体制の強化を図って行きたいと思っております。

(渋川森林事務所通信員)



直接の呼掛活動

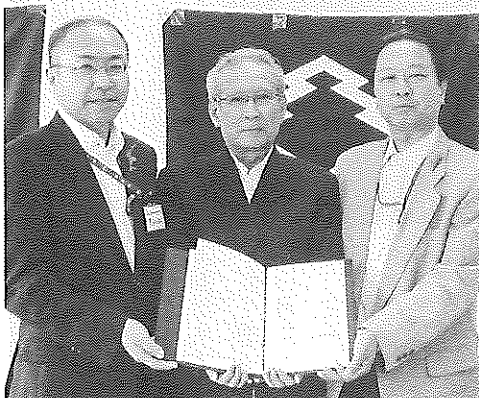
烏川流域(源流部)森林整備推進協定の締結について

平成二十九年六月一日(木)、関東森林管理局において、磯村産業株式会社、群馬森林管理署、西部環境森林事務所の三者により標記の協定を締結しました。

この協定は、森林の持つ多面的機能の高度發揮と資源の循環利用を図るため、民有林(磯村産業社有林と烏淵県有林)と国有林が、連携して団地化を推進し、合理的な路網の整備、効率的な森林施業の実施、地域材の安定供給に取り組むことを目的としています。

対象となる森林は、烏川の源流域に位置する、社有林一、〇三六ha、県有林五二六ha、国有林二、一二六ha、計三、六八八haです。協定期間は平成三十二年三月末と

烏川流域(源流部)森林整備推進協定の調印式

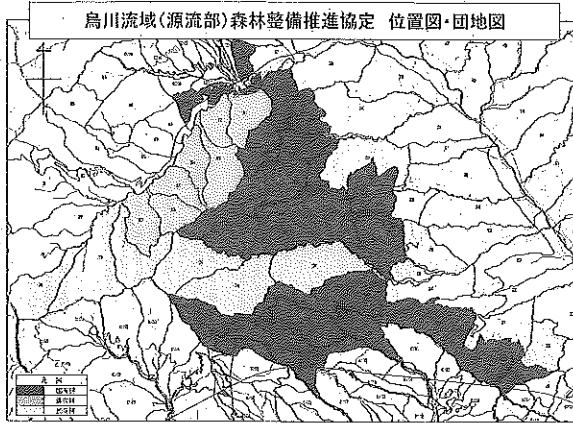


なっています。

当協定では、互いの路網を供用することを計画しています。国有林内路網と民有林路網を連結することにより、運材距離短縮による生産性の向上、国有地・民有地を通過することによる利用間伐箇所の増加等が見込めます。

また、今後開催していく運営会議の中で造林、保育、伐採等施業の低コスト化や獣害対策等の技術交流を図るほか、木材の販売についても連携・協力していくこととします。

本協定が、民有林国有林に関係なく連携して集約化を推進する流れの源流となることを期待します。

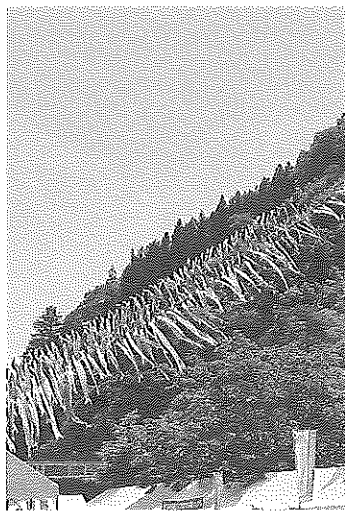


(西部環境森林事務所通信員)

第七十一回群馬県植樹祭

「小さな芽 未来へつながる 希望の木」をテーマに、平成二十九年五月二十日、第七十一回群馬県植樹祭が多野郡神流町の神流川公園で開催されました。

当日は初夏のまぶしい日差しの中、清流神流川の上空を泳ぐ八百匹の鯉のぼりが来場者をお迎えしました。



青空に泳ぐ鯉のぼり

歓迎の挨拶の中で神流町長は「先人から受け継いだ充実した森林資源を有効活用することが私の責務」「植樹祭を契機に、林業の取り組みをより一層強化し、雇用の拡大につながる、貴重な財産を守り育て活用し、神流町の未来へつなげて行きたい」と、林業再生と雇用創出を誓う言葉が述べられました。

また、緑のメッセージでは、神流町立万場小学校の茂木陽さんが「きれいな空気や美味しい水を生み出す森林に日々感謝し、森林を

守り次の世代へとつないで行きたい」、同じく新井咲里さんが「この素晴らしい緑がいつまでも豊かであり続けるために私たちもこの町の自然を大切に守って行きたい」と、未来を担う子どもたちから頼もしい言葉をいただきました。

苗木交換では、神流町の木「ケヤキ」の苗と、次期開催地である安中市の木「スギ」と「マツ」の苗が交換されました。

記念植樹では、こいこい橋を渡った神流川の右岸に、ヤマモミジとカエデ、ヤマブキを植えていただきました。苗木の成長とともに、神流町の森林がますます豊かに、そして林業が町の未来へつながる希望となることをご期待申し上げます。(藤岡森林事務所通信員)

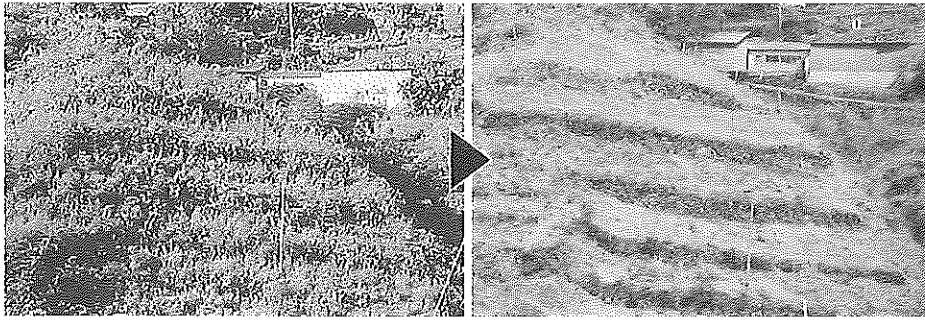


次期開催地安中市と苗木交換

の便り

ぐんま緑の県民基金を活用した 地域活性化の取り組み

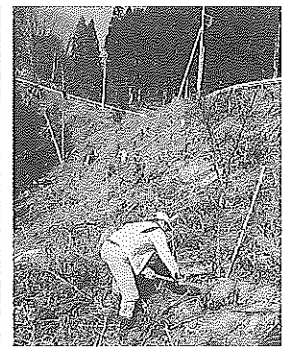
群馬県では平成26年度より「ぐんま緑の県民基金」を財源とする「ぐんま緑の県民基金」により、市町村や地元住民・ボランティア団体等による里山地域や平地林の整備を「市町村提案型事業」として支援してまいります。



刈払いにより、はっきり見えるようになった“ちいじがき”

甘楽町の南西部に位置する秋畑那須地区は、霊峰稲含山の山麓の集落で、小さな石を積み重ねた石垣「ちいじがき」により造成された段々畑の景観と、農村体験による地域活性化に取り組んでいますが、近年は竹林の侵入や

森林の手入れの遅れにより、景観・生活環境に係る課題を抱えていました。



道路の安全確保と景観の改善を図った“鯉のぼりの里”

山線沿いのスギを伐採し、落葉広葉樹を植栽することで冬期の路面凍結を防止するとともに、隣接する「鯉のぼりの里」を訪れた人々が道沿いに景観を楽しめるよう整備しました。このような森林整備を通じた地域活性化の取り組みを、「ぐんま緑の県民基金」は継続して支援していきます。

(富岡森林事務所通信員)

嬭恋村で植樹イベントを開催

嬭恋村と東京都千代田区は、五月二十一日に、嬭恋村の角間山の村有林で「ちよだ・つま恋の森づくり」事業を実施しました。

両自治体は昭和六十三年に姉妹提携を結び、平成二十八年十二月には「森林整備の実施に関する協定」を締結し、共同して村有林の森林整備を行うことにより、二酸化炭素の吸収量の増加を図り、温暖化対策に寄与することとし、当事業も協定の付帯事業に位置づけられ、開催は今年が五回目となります。

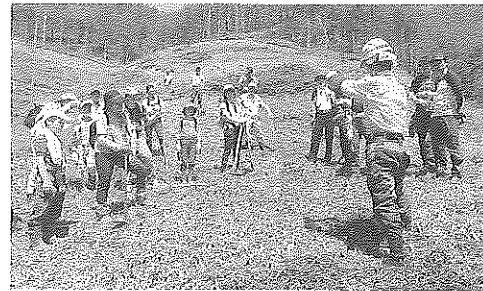


参加者による記念写真

当日は、天気は快晴、事業地近くの鹿沢温泉ではヤマザクラが満開、カラマツの芽吹きの新緑が美しい中の活動となりました。

約七十名の参加者は、地元吾妻森林組合の総括班長から森林の働きについての講話を聞き、次に、およそ六十年生のカラマツの伐倒作業の実演を見学し、

立木が倒れる迫力を体感しました。続いて、苗木の植え方の説明を受けた後、ミズナラの苗木の植え付け作業に取りかかりました。



植え方の説明

事業地は、標

高一千六百m、

カラマツの伐採

跡地で、表層が

クマザサの根に

覆われ、植穴掘

りにとっても苦労

しておりました

が、親子で協力

し合う姿も見ら

れ、楽しそうに

三百本の苗木を

植栽しました。

参加者から

は、「空気がお

いしい」、「緑が

きれい」、「日陰

がほしい」など

の声が聞かれま

した。

このような取

組が継続され、

群馬の豊かな森林が次代に引き継がれていく

ことを祈念します。

(吾妻環境森林事務所通信員)

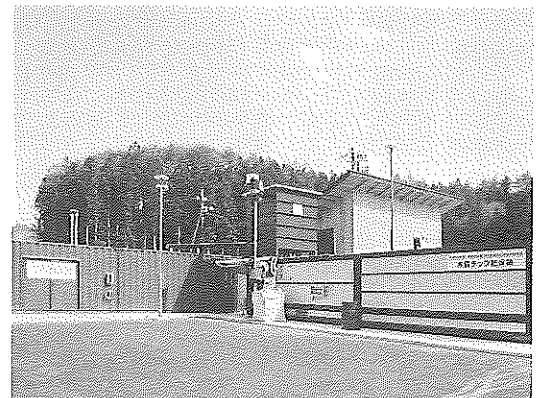


親子で植樹

木質バイオマス発電施設 「森林の発電所」開設

平成二十九年五月九日、川場村立岩に新設した木質バイオマス発電施設「森林の発電所」の完成式典が開催され、関係者およそ七十名が集まり、テープカットや記念植樹を行いました。

この施設は、川場村、利根沼田森林組合、清水建設(株)、(株)園プラザ川場、(株)世田谷川場ふるさと公社、(株)雪ほたかを出資者として設立した(株)ウッドビレッジ川場が群馬県林業・木材産業再生緊急対策事業等を活用し、建設したものです。同社は二十七年度に製材工場を整備し、地域材を内装材等へ加工してきましたが、ここで未利用間伐材等を木質チップに加工し、今回整備した森林の発電所で使用



する仕組みになっています。森林の発電所は、二千五百㎡の敷地内に、付属棟、発電施設、乾燥施設を配し、チップ運搬車輻で搬入された木質チップを燃料チップ乾燥投入施設で乾燥し、これを発電施設に送り、熱分解により発生したガスでエンジンを駆動させて発電を行います。発電能力は四十五キロワットで、二十九年四月一日から発電を開始しています。

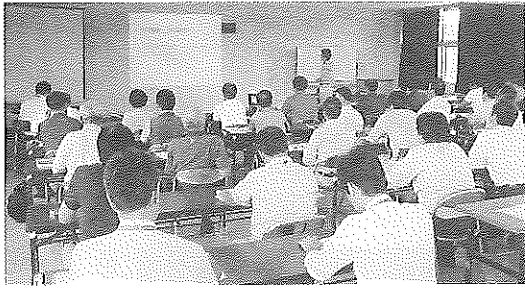
この電気は、東京都世田谷区の一般家庭四十世帯に売電しています。今後は、発電過程で発生する熱を温水として利用し、イチゴなどの施設栽培に活用する予定です。地域の森林資源を有効に活用する取組が順調に発展することが期待されます。

(利根沼田環境森林事務所通信員)

クマ剥皮被害材強度等性能試験結果報告会を開催しました

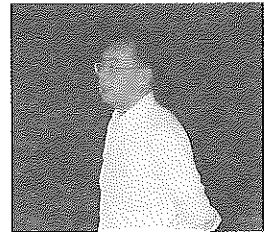
五月三十日（火）、桐生森林事務所の主催により「クマ剥皮被害材強度等性能試験結果報告会」を開催しました。

当事務所管内では、スギ、ヒノキなどの人工林におけるクマ剥皮被害が毎年多く発生しています。被害は中大径木で発生することから、森林所有者の経営意欲を減退させる一因となつています。補助事業を活用し、帯巻き、テープ巻き等の守る対策を積極的に進めていますが、剥皮被害は広域で発生しており、対策にも限界があります。また、対策を行うためには森林所有者の経済的負担も必要であり、対策が間に合わない一因となつています。



片平独立研究員による説明

剥皮被害を受けた立木は、被害の程度により枯死したり、時間の経過とともに腐朽や材の変色が進み、経済的価値が下落してしまいます。こうしたことから、当事務所では、クマ剥皮



工藤独立研究員

被害材の利活用を進めるため、県林業試験場と連携し、平成二十七年年度から剥皮被害材の強度等性能試験を行ってきました。

今回は、この試験結果について、管内の林業関係者の方と情報共有を行い、合わせて意見交換を行うために開催しました。

参加者は、管内の市町村、森林組合、林研グループ、素材生産事業者のほか、森林管理署、県関係など合計で五十名近くになりました。

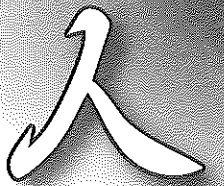
報告会では、まず、林業試験場の片平独立研究員がクマの生態や剥皮被害の発生状況について説明を行い、その後、工藤独立研究員が強度等性能試験の結果について報告と解説を行いました。

強度試験の結果、剥皮によって変色や腐朽が及んでいない部位では強度低下が生じていないこと、乾燥に伴う表面割れについては、採材位置によって差があることなどが報告されました。

採材、木取の方法によっては、表面割れの少ない化粧用構造材としての利用も期待でき、積極的なPRが必要なことはいうまでもありませんが、将来的には剥皮被害材のブランド化も夢ではないのかもしれない。

（桐生森林事務所通信員）

地域を担う



篠原木材有限公司

小池 範明

一 趣味

キャンプ

二 今後の抱負

林業に就いて三年が経ちますが、林業は奥深くまだまだ自分自身の技術、経験を磨いていく必要がありますし、大変危険な仕事です。ケガ、事故に気を付けて、仕事をしていきたいと思えます。



地域を担う人

三山工業株式会社

市川 太一

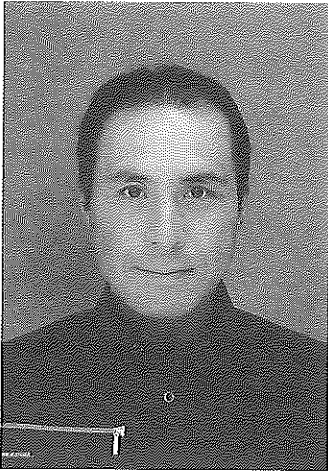
一 趣味

自動車

二 今後の抱負

これからは、現場においてどうすれば安全に効率良く作業できるか、危険性についての判断等、自分で考えて行動しなければならぬ場面に出くわす事が多々あると思います。

まずは、親方、先輩方の仕事を良く見ながら、自分の悪いところを常に改善するように努め、「慣れ」という意識を払拭し、いつでも初心を忘れずに作業に従事したいと思います。



磯村産業株式会社

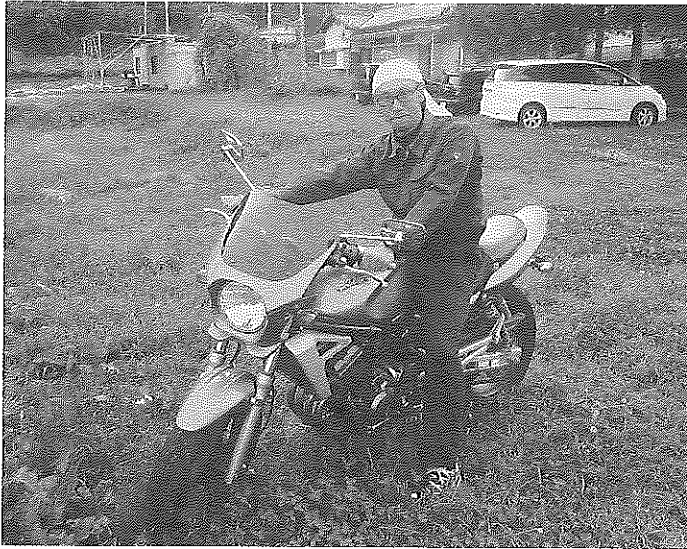
大澤 成樹

一 趣味

ツーリング、スノーボード、ドラム演奏

二 今後の抱負

チェーンソーや重機等の技術の向上、ケガや事故のないように安全に努めて行きたいと思います。



株式会社 清水インダストリー

植木 尚

一 趣味

ドライブ

二 今後の抱負

FW研修で学んだことを活かし、ケガや事故のないよう仕事をしていきたいと思っています。

また、後輩にも事故のないよう指導していきたいと思っています。



普及コーナー

林業技術を競う 大会が開催されました

●群馬県林業技能競技会

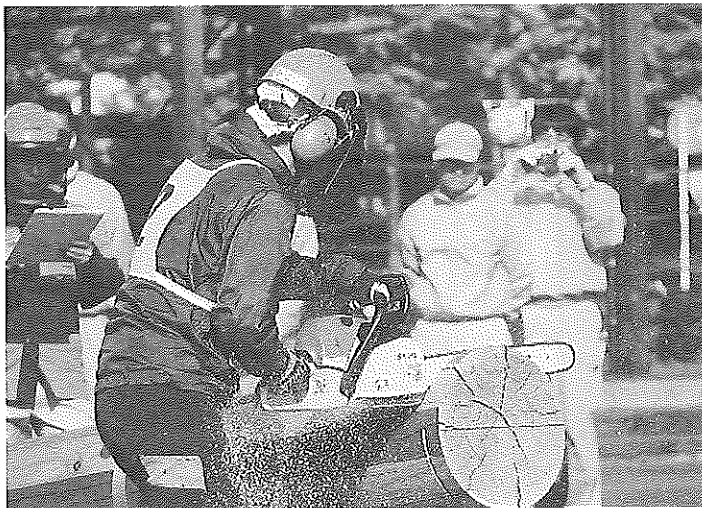
平成二十八年十一月六日に六回目となる「群馬県林業技能競技会」が群馬県森林組合連合会の主催で開催されました。本競技会は、林業の現場で欠かせないチェーンソーの技術と、安全作業意識の向上、林業の社会的地位向上、新規林業就業者数の拡大などを目的に、平成二十一年度から行われています。

林業に必要な技術を一般の方へ広く普及することも兼ねて、高崎市内のもてなし広場で2回目の開催となりました。

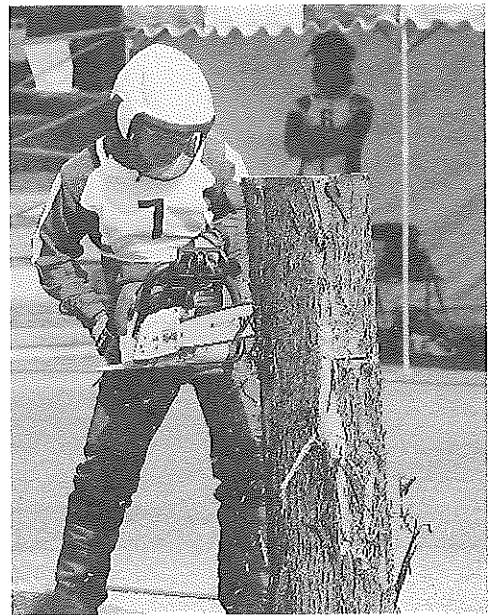
また、競技内容も、全国大会である日本伐木チャンピオンシップで実施している種目を取り入れて行いました。

競技種目は、ソーチェーン着脱競技（バーを外し、別のチェーンに付け替える時間を競う）、丸太合わせ輪切り競技（斜め横に固定された丸太を指定された厚み内に下から切り上げた後、上から切り合わせて輪切りを行う）、枝払い競技（枝に見立てた棒を早く正確に払うことを競う）です。それに本県独自の突っ込み切り・斜め切り競技を加えた四種目で実施しました。

なお、競技の採点方法は、各競技とも正確な技術・安全性・スピードの百点満点で採点



丸太合わせ輪切り競技



突っ込み切り・斜め切り競技



枝払い競技

を行い、合計得点で競いました。競技会には、十の事業者から十四名の応募がありました。競技の都合上抽選で十名の方に参加してもらいました。競技者は、普段、人前で作業を行うことが少ないため、多くの観客を前にしての競技はかなりの緊張があったと思います。そのため、チェーンブレイキをしないまま次の工程に移動するなど安全面に不備があった人もいました。現場では、そのようなことのないようお願いいたします。



上位入賞者

今回の競技者は、平均年齢三十・六歳、林業の平均経験年数三・九年と若い人達でした。競技を通じて、安全作業の重要性の再確認と、技術向上に繋がったと思います。

競技結果は次のとおりです。

優 勝…細谷 北斗さん (磯村産業㈱)

準優勝…中林 悠平さん (下仁田町森林組合)

第三位…鈴木 幸宏さん (桐生広域森林組合)

今回、高崎の市街地で実施したことから、多くの方に普及できたかと思えます。次年度も開催を予定していますので、多くの方の参加・観覧を期待しております。

第十八回群馬県きのこ料理コンクールの参加者募集について

群馬県では、県産きのこの消費拡大に向け、県産きのこを用いたアイディア料理コンクールを毎年開催しています。本コンクール最優秀作品は全国大会に群馬県代表として推薦を行います。皆様奮って御応募ください。

▽応募資格 県内に在住又は通勤・通学されている方

▽応募内容 ①きのこを用いた未発表の料理
②材料のきのこは群馬県内で生産されているものを用いること

③材料費は1作品4人分で二千円以内

④調理時間は1時間以内(乾きのこ等をもどす時間は除く)

▽応募期間 九月二十九日(金)必着

▽応募方法 応募票に必要事項を記入し、写真を添付の上、郵送又はメールにより御応募ください。詳しくは後述の群馬県ホームページを御覧いただくか、お問い合わせください。

▽応募先 群馬県森林組合連合会内

群馬県特用林産振興会

きのこ料理コンクール係

(〒379-2153 前橋市上大島町182の20)

E-mail rengou@gunmor.or.jp

▽審査日程・会場

・1次審査(書類審査)

平成二十九年十月二十日(金)

※審査員による応募票に基づく選考。本審査出場者は十月二十七日までに通知。

・本審査(調理審査)

平成二十九年十一月二十五日(土)

学校法人山崎学園群馬調理師専門学校

(前橋市小屋原町1-14の1)

▽問い合わせ先

県庁林業振興課 きのこ普及室 きのこ係

☎027-226-3234

ホームページ <http://www.pref.gunma.jp/>

06/e3600109.html



第17回最優秀作品「しいたけのマカロン仕立て」

県産スギ心去り平角の開発について

戦後植栽された県内のスギは十齡級を越えるものが多くを占めており、末口径が30cmを越える大径材が原木市場に多く出荷されています。しかし、近年の住宅構法や建築資材の変化により大径材の需要は減少しています。そこで今年度から、スギ大径材から住宅梁用の心去り平角を2本製材し(図-1)、生産時の歩留りや材の強度性能等について試験研究を行っています。

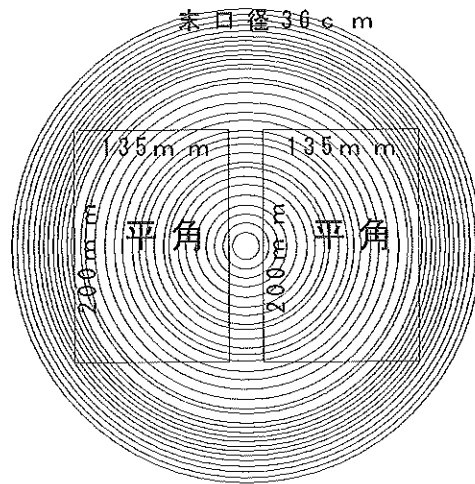


図-1 心去り平角の製材木取り

想定される心去り平角のデメリットとして、製材直後の挽き曲がり、さらに乾燥による曲がりや狂いが、従来の心持材と比べて大きくなることが挙げられます。このため、挽き曲がりや乾燥による狂いを調査し、適切な製材寸法歩増(仕上寸法に対する余幅)を決定します。

一方、心去り平角の期待できるメリットとして、次のことが挙げられます。
一、強度性能の増大

心去り材は未成熟材が占める割合が小さくなるため(図-2)、原材料の素材丸太が同じものでも、心持ち材に比べてヤング係数が高くなる(たわみ難い性能となる)傾向があります。そこで、県内の原木市場で大径材の調査を行い(図-3)、流通している大径材の未成熟材の割合を把握した上で、心去り材の強度性能調査を進めていきます。

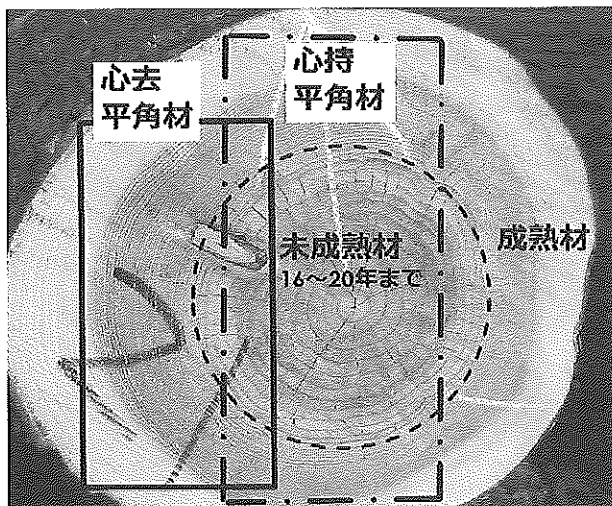


図-2 未成熟材と平角の製材木取り

二、化粧性の向上

大径材はそのほとんどが一番玉であることから、節が少ない心去り平角材の製材が期待

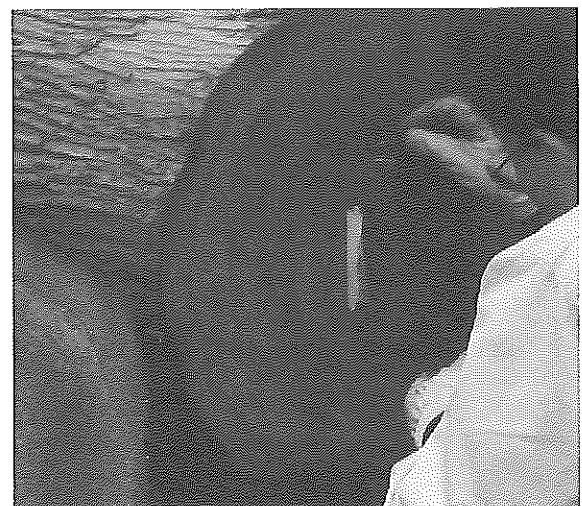


図-3 大径材の測定

できます。

また、心持ち材の場合、乾燥による表面割れを抑えるには高温乾燥を行う以外に方法がありませんが、心去り材は乾燥による表面割れそのものを大幅に抑えられる可能性があります。心去り材の乾燥試験も併せて実施し、乾燥による表面割れの調査も行う予定です。節や表面割れが少ない構造用材であれば、現し構法等の化粧性も要求される部位に使用することが可能となります。

今後は、木材業者や工務店、ハウスメーカーなどの関係者に対して得られた結果を随時提供し、スギ大径材の利用拡大を図っていきたいと考えています。

(林業試験場 木材係)

トピックス

林業改良普及協会 第五十八回通常総会

第五十八回通常総会を五月二十四日、群馬県前橋合同庁舎において、金井康夫県議会議環境常任委員長、須藤雅紀県環境森林部長、岩井均県造林協会会長をはじめ多数のご来賓をお迎えして、大勢の会員の参加を得て盛大に開催した。

開会に先立ち新井会長は、「当協会も財政的に厳しいが、頑張っていきたい。群馬県で



あいさつする新井雅博会長

は緑の県民税をつくったが、国でも同じような新たな税をつくる動きがある。国や県に対し林業諸団体が一体となって現場の声を届けていきたい」と述べた。

来賓として駆けつけた須藤部長は「皆さまは本県林業振興に大きな役割を果たされており、心から敬意を表する。群馬県の豊富な森林資源を循環利用して林業の再生と自立を促し、成長産業化を進め行きたい。『林業県ぐんま』の実現を加速化させていきたい」と力強くあいさつ。

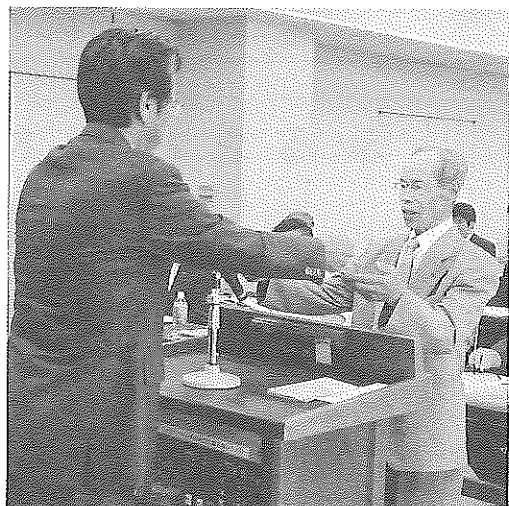
つづいて金井委員長（当時）は、「森林は私たちの日頃の生活において大変重要な役割を果たしている。この豊富な森林資源を地域の活性化につなげていくことが課題である」と祝辞を述べた。

優良林業推挙行事表彰式後、議事に入り、全ての議案について提案のとおり満場一致で承認された。

また、役員については全員が再選され、新井会長が代表して抱負を述べた。

平成28年度優良林業推挙行事表彰式

総会開催に先立ち、平成28年度林業経営推挙行事及び間伐コンクール入賞者表彰式が開催されました。8名の入賞者には県知事、県森林組合連合会長、県造林協会会長、県普及協会展長から賞状と記念品が贈られた。



表彰式の様子

・平成28年度林業経営推挙行事入賞者	最優秀賞（知事賞）	小平生産森林組合 (みどり市)
・平成27年度間伐コンクール入賞者	最優秀賞（知事賞）	南牧村森林組合
	優秀賞（森連会長賞）	神流川森林組合
	〃（造林協会会長賞）	吾妻森林組合
	優良賞	利根沼田森林組合
〃	〃	渋川広域森林組合
〃	〃	多野東部森林組合
〃	〃	桐生広域森林組合



手の届くところに 大自然のかおろを

株式会社 アイビック

代表取締役 加藤 勝弘

本社 富岡市下高瀬534

☎ : 0274-63-1124 FAX : 0274-63-0176

東京本社 東京都足立区舎人5丁目18番25号

☎ : 03-3899-2886 FAX : 03-3855-5625

平成二十九年七月一日 発行

総合建設業

萩原建設株式会社

代表取締役 萩原 信夫

甘楽郡下仁田町大字下小坂200

☎ (0274) 82-3002(代) FAX 82-6037

森林土木事業を通して、山村振興と山地災害防止に貢献

群馬県森林土木建設協会

会長 山藤 浩一

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7(群馬県公社総合ビル6階)

☎ (027) 280-6256 FAX (027) 255-6265

E-mail: gun-sidokeki@tiara.ocn.ne.jp

ふるさとの木で家を建てよう

県産材を使って

住宅を建築すると最大65万円

県が補助します

内装を施工すると最大20万円



ぐんま優良木材品質認証センター

〒379-2131 前橋市西善町524-1

電話: 027-266-8220

http://www.gunma-wood.com/

ひとりごと 記念すべき2000号の発行となりましたが、特別なことができず大変申し訳なく思っています。昭和34年からの58年間に及ぶ大勢の先輩方の大きな足跡に敬意を表します。厳しい時代が続きますが、継続こそ力なり、これからも頑張つて参りますので引き続きのご愛読をお願い致します。(K.A)

発行責任者 新井 雅博
印刷者 杉浦印刷株式会社